

- 民族共生象徴空間は、アイヌの文化復興等に関するナショナルセンター。北海道白老町しらおいちょうに2020年4月オープン
- 「国立民族共生公園」、「国立アイヌ民族博物館」、「慰霊施設」を整備
- 公益財団法人アイヌ民族文化財団が運営主体（29年6月閣議決定）。アイヌの人々の主体的参画を確保

民族共生象徴空間

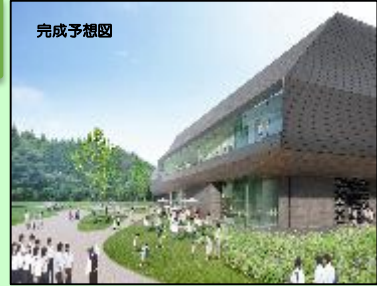
●北海道白老町ポロト湖畔を中心に整備



国立アイヌ民族博物館

- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

平成30年11月30日整備状況
(平成30年2月に建設工事着手)



国立民族共生公園

●舞踊、工芸等のアイヌ文化を体験・交流する体験型のフィールドミュージアム

平成30年度は、土地造成工事・建設工事を実施



慰霊施設

- ポロト湖の東側の太平洋を望む高台に慰霊施設を整備
- 施設全体は、平成31年秋頃を目指し着実に整備



プロモーションの充実・強化

- ◇年間100万人の来場者数が目標
- ◇現在、積極的なPRを実施

開業準備を考慮した施設整備

- ◇国立民族共生公園内において体験交流プログラムのリハーサルや研修、実施に必要な機材の設置等を開始（平成31年10月から）



◎民族共生象徴空間の愛称・ロゴマークの決定

- 愛称は、**一般投票により「ウポポイ」に決定**(投票総数 全国47都道府県 10,641票)
- 12月11日の「開設500日前カウントダウンセレモニー」にて発表

<経緯>

平成30年

7月 「愛称等選考委員会」を設置

8月～9月 アイヌ語を学んでいるアイヌの方々を中心に愛称募集
(応募総数:35案)

10月 選考委員会において一般投票対象3案を決定

10月26日～11月11日
一般投票を実施
(投票総数:10,641票)

11月30日 選考委員会で愛称・ロゴマークを決定

12月11日 「開設500日前カウントダウンセレモニー」(札幌市)にて公表

愛称

「ウポポイ」に決定

ロゴマーク



一般投票結果(総数:10,641票)

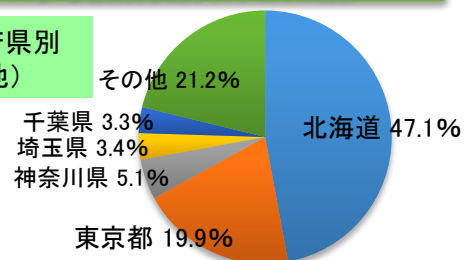
- ◆ウタルニ 2,971票
(意味:人々がいるところ)
- ◆ウヌカリ 3,374票
(意味:互いに会うこと)
- ◆ウポポイ 4,296票
(意味:(おおぜいで)歌うこと)



開設500日前カウントダウンセレモニー

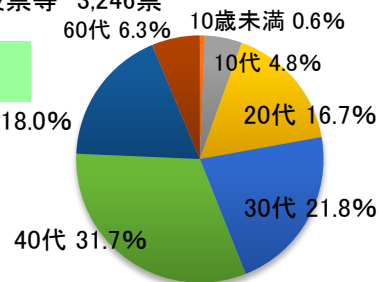
ウェブサイトによる投票状況(7,395票)

■都道府県別
(居住地)



※他にFAX投票等 3,246票

■年代別



○ 民族共生象徴空間のPR展開

○ 「世論調査」によれば、象徴空間の全国認知度は9.2%（北海道39.5%）

○ 全国的な象徴空間の認知度向上に向け、イベント・広報等のPRを展開中

「アイヌ政策に関する世論調査」 (調査時期 H30.6.28~7.8)

①アイヌ民族について知っている

区分	今回調査
全国	94.2%
北海道	98.7%

②アイヌ民族が先住民族である ことについて知っている

区分	今回調査
全国	77.3%
北海道	88.0%

③アイヌ語という独自の言語ある ことについて知っている

区分	今回調査
全国	64.6%
北海道	77.3%

④「民族共生象徴空間」について 知っている

区分	今回調査
全国	9.2%
北海道	39.5%

象徴空間の全国の認知度向上
が課題

全国的なPR展開



子ども霞が関見学デー
(H30.8.1~2)



愛称・ロゴマーク決定
(H30.12.11)



開業500日前カウントダウンセレモニー
(H30.12.11)



有楽町イベントTOKYO
(H30.12.13)



日本縦断PRキャラバン
(H30.8~H31.1)



媒体を活用した広報
(H31.1~3)

今後のPR展開

- 国際イベント、旅行博との連携
- 訪日外国人向け空港等のPR
- マスコミ等の活用
- プロモーション動画の広告 等

政府目標である年間来場者数
100万人を達成するため
切れ目のない広報PRを実施

